

水野勝成・堀直寄の二人を早速南都へ向かわせた。二人が南都へ着陣したという噂があつたので、大野軍は南都放火を断念し、直接郡山の南口五町目というところへ進んだ。そこから約一五・七キロメートル南の當麻今井村(原文のまま)という大きな村を焼き払うこととなり、道すがらあちこちを放火して行つた。今井というところは元々兵部ひょうぶ(河瀬兵部丞または河瀬八郎兵衛尉宗綱ともいう)という一向宗の僧侶が築いた寺じ内町ないまちであつたので、兵部の一族が檀家を動員し、今井の西口まで出て行つた。そこで鉄砲を撃つたので、大野軍は今井に攻め入ることができず、そこから北西の方角の法隆寺を通り、関屋せきや越こえにて退却した。その途中に百済村くだらというところをも焼き払つた。

その頃、高取城には本多利朝が三万二千石の領地を持って居城していた。また、宇智郡二見ふたみというところには松倉重政が一万石の領地を持って居城していた。大野軍が大坂から大和国を焼き討ちに來たことを聞きつけて、早速騎馬隊六十騎ほどで出陣した。それから約一一・八キロメートル進み、御所ごせの西三本松というところで具足櫃ぐそくびつに腰をかけて兵糧を食した。

その間に、松倉は高取と御所の領主へ使者を送つた。その内容は、「大坂からの軍勢が焼き討ちにやつて來たことを聞き、これを阻止するために、ここまで出陣した。あなた方も出陣すべきであろう」というものであつた。ところが二人は「大坂からの軍勢が大人数で各地を焼き払い、高取や御所へも押し寄せてくるであろうことを聞いているので、出陣はしない」と返答した。松倉はとんでもないことであると腹を立てて「我々よりも領地が多く、人数も多く動員できるというのに出陣しないということは、私を討ち死にさせて、つまるところは出家されるおつもりか」と非難した。

松倉は、後方部隊がなくとも、すぐに出立して大野の軍勢を阻止しようと、馬の速度を上げて急いだところ、大野軍が早くも関屋まで引き返したことを聞きつけた。松倉はただちに片岡を通つて関屋へ攻撃をしに行く覚悟で、単独で急ぎ追いかけたが、時間がかかつたので、その間に大坂からの軍勢は国分こくぶまで引き返してしまつていた。しかし松倉は国分まで追いかけて、疲弊した敵の兵を三、四人討ち取り、また一、二人を生け捕りにし、それを伏見へ